

# 歯科口腔介護の教育 —生活の質の向上をめざして—

江 川 広 子

明倫短期大学 歯科衛生士学科

## Educational Program of Oral Health Care — Toward the Improvement in Quality of Life —

Hiroko Egawa

Department of Dental Hygiene and Welfare, Meirin College

### 要旨

わが国の急速な高齢化に伴い、寝たきりや痴呆により介護を必要とする高齢者が予想以上に増えている<sup>1)</sup>。このような方々にとって健康で清潔な口腔内を保ち、よく噛んで、十分に味わって嚥下し、明るい表情で「美味しいね」と会話を交しながら食事ができるように支援することは、全身の健康と生活の質の向上になくはならない介護の一部である。

しかし現実には、いろいろな課題が挙げられる。その課題を解決するために、科学的手法で実施される歯科口腔介護が、大きな力を発揮すると考える。介護に関わる者が歯科口腔介護の知識と技術を習得し、これを介護の分野に確実に位置づけ実施していくことが重要である。その効果は高齢社会の活性化につながることであり、歯科口腔介護に携わる者<sup>3)</sup>はその使命を十分に果たす必要がある。

キーワード： 日常的歯科口腔介護，療養管理的歯科口腔介護，介護の手法

Keywords: Daily oral health care, Professional oral health care, Care process

### 1. はじめに

歯科口腔介護を行う領域は口，顎，頸，顔面の広い範囲を示す<sup>2)</sup>。

この領域は①食物を噛んで飲み込む（摂食・嚥下），②話をする（構音），③いろいろな表情を表す（表情），④食物を味わう（感覚），⑤唾液で口腔内をきれいにする（分泌）などの五つの働き（機能）がある。これらの働きは人間の持つ進化した機能であるから、毎日

の生活の中で十分に発揮されると人間的欲求が満たされて、毎日の生活が明るく楽しくなり、人間らしい生活を送ることができる。このことは、生活の質（QOL）の向上，健康の維持にもつながる<sup>4)</sup>。

これらの機能が高齢になって低下したり、病気やケガのために障害を受けたりすると、生活にいろいろな不都合が生じてくる。そこで、そうならないための介護予防も含め、介護を必要とする方々の日常生活を支援するのが歯科口腔介護である。

### 2. 歯科口腔介護の対処法

#### 1) 日常的歯科口腔介護

家族，介護福祉士等によるうがい，口腔清拭，歯みがきなどの介護で日常的に毎日行うこと。

#### 2) 療養管理的歯科口腔介護

歯科衛生士等の専門職による歯科口腔介護で、介護計画作成，口腔環境整備の介護をはじめ、歯科領域の機能の介護予防及び介護，機能訓練，療養管理などのこと。

### 3. 歯科口腔介護の内容

#### 1) 介護導入：アプローチの基本（呼びかけ，握手，挨拶）

介護導入の握手・挨拶は、要介護者の信頼を得る第一歩となり、身体のかなで敏感な顔面や口腔内を触れたりみせたりすることで、介護者の心が行き通って要介護者に伝わっていく（図1）。

#### 2) バイタルサインの確認（脈拍，血圧，呼吸，体温，顔色，舌診，含嗽）

介護を行う前に、その日、そのときの高齢者の



図1. 介護導入：握手，挨拶

体調を知るために七つのバイタルサイン（体調所見）を確認する。歯科口腔介護を担当する者は、バイタルサインが速やかに適確に把握できるよう訓練をしておく。

### 3) 介護法の基本行為

介護は、要介護者の全身状態や能力に応じて、さまざまな内容を取り入れていく必要がある。どの場合でも介護の基本行為は観察、誘導、援助、機能訓練の知識と技術を身につけ、要介護者の日常生活動作等の状況に応じて実施する。

- (1) 観察： 見守り
- (2) 誘導： 一部介助
- (3) 援助： 全介助
- (4) 機能訓練：リハビリテーション

### 4) 口腔環境整備の介護法

口腔環境には歯、粘膜に覆われた上下顎、歯肉、口蓋、舌、義歯などが存在する。これらを清潔にし健康な状態を保持していく介護で、その内容は以下のとおりである（図2，3，4，5）。

#### (1) 口腔の観察

#### (2) 口腔清掃の介護

- ①歯ブラシの選び方・握り方・あて方・動かし方
- ②口腔清掃介護法の三つの介護姿勢手首支え、前支え、後ろ抱え口腔清掃介護法



図2. 全反射ライトミラーによる口腔観察



図3. 歯頸部のプラーク



図4. 義歯のクラスプの汚れ

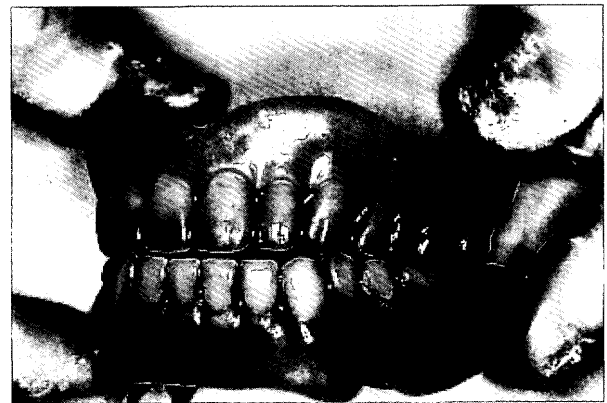


図5. 義歯の染め出し

#### (3) 義歯の取り扱いのポイント

- ①汚れる部位と清掃法
- ②入れたまま、外したままにしない
- ③睡眠中の取り扱い
- ④局部床義歯着脱の要領
- ⑤総義歯の上手な使い方
- ⑥使用中の義歯の観察
- ⑦義歯洗浄剤の活用
- ⑧義歯破損への対処
- ⑨歯科医師、歯科衛生士の定期的管理

#### (4) 食生活の介護

- ①食生活の自立支援

食べたい物を食べたいとき、望む場所で食べられるように介護する。

## ②食事動作と歯科口腔介護

食事動作の支障について管理・介護し、QOLの向上を図る。

## ③食事の概念

人間にとって食事とはどういうものかを考える。

## ④歯科口腔介護と食事の質

健全で楽しい食事環境を作る。よく噛み、よく味わうようにする。好みのものを美味しく、バランスよくとるように誘導する。

## ⑤調理担当者との連携

介護者が得た口腔環境整備の情報、咀嚼機能の情報、味覚機能の情報を栄養士等の調理担当者に伝え、要介護者にとって質の良い食事を提供する。

## 5) 歯科領域の機能の介護法

摂食・嚥下、構音、表情、感覚、分泌の五大機能のいずれかの障害により日常生活に支障をきたした要介護者に対し、歯科の知識と技術を活用して、介護の基本行為(観察、誘導、援助)を行い、さらに、その機能を維持・改善させる各種のリハビリテーションを実施して、日常生活を支援する。五大機能の介護法について、主な内容は以下のとおりである。

### (1) 摂食・嚥下機能の介護

摂食・嚥下姿勢の保持の仕方、食事介助法、舌回転運動、口輪筋・頬筋のマッサージ等

### (2) 構音機能の介護

唇音の「ば、ぱ」、舌音の「た、ら」、口蓋音の「か、が」の基本構音訓練法等

### (3) 表情機能の介護

表情筋運動法(タコ運動、フグ運動、パチクリ運動、いばり運動、いかり運動)、表情筋マッサージ法等

### (4) 感覚機能の介護

三叉神経刺激法：三圧痛点(図6)、三叉神

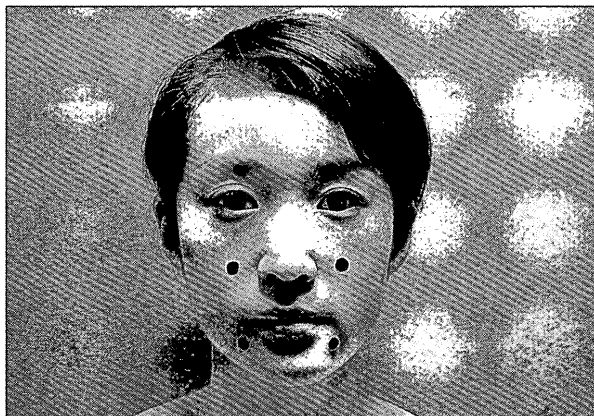


図6. 三叉神経刺激法：三圧痛点

経のマッサージ、味覚テスト等

## (5) 分泌機能の介護

唾液腺マッサージ(図7)、金魚運動：小唾液腺刺激運動(図8)、レモン水、梅干の刺激等



図7. 唾液腺マッサージ



図8. 金魚運動

## 6) 歯科領域の形態障害の介護法

歯科領域の形態障害には、大きく分けて先天性のもの、外傷によるもの、疾患および老化によるものがある。障害の状態としては、歯、口唇、口蓋、顎、顔面皮膚等の欠損や変化が挙げられる。歯科領域の形態障害に対する介護法は、これらの障害により生じた生活の支障に対する支援で、口腔の形態障害に対する介護と顎・顎・顔面の形態障害に対する介護に分けられる。この分野の形態の介護は、歯科医療と密接に関連し、歯科医師の治療と並行して行うことが必要である。

### (1) 口腔の形態障害の介護

### (2) 顎・顎・顔面の形態障害の介護

## 7) 歯科領域のリハビリテーション

歯科口腔介護で行うリハビリテーションは、老化や疾病回復後の残存能力の維持・改善、介護負担の軽

減など、自立生活を支援することを目的に行われる。

- (1) 歯科領域の筋肉の機能訓練
- (2) 歯科領域の神経の活性
- (3) 手指、腕、頸、肩の筋肉の機能訓練

#### 4. 歯科口腔介護用具

介護器材は、医療器材と異なり日常生活の中で使用することを念頭におき、より安全で簡便なものを取り入れた。現在使用されている介護器材の主なものは以下のとおりである(図9, 10, 11)。

##### 1) 介護の基本用具

全反射ライトミラー、探針、ピンセット、グローブ、ガーゼ、綿花、ティッシュペーパー等

##### 2) 介護導入用具

消毒液、ガーグルベースン、コップ、歯科口腔介護プロトコール等

##### 3) 口腔環境整備の介護用具

歯ブラシ、補助的清掃用具、含嗽剤、義歯清掃ブラシ、義歯洗浄剤、開口ヘラ、アングルワイダー等

##### 4) 歯科領域の機能の介護用具

カレースプーン、摂食食材、綿棒(割り箸、ガーゼ)、ストロー、ボタンプル、ごま油、人工唾液、温水・冷水タオル、バイトプレート、味覚テスト、紙コップ等

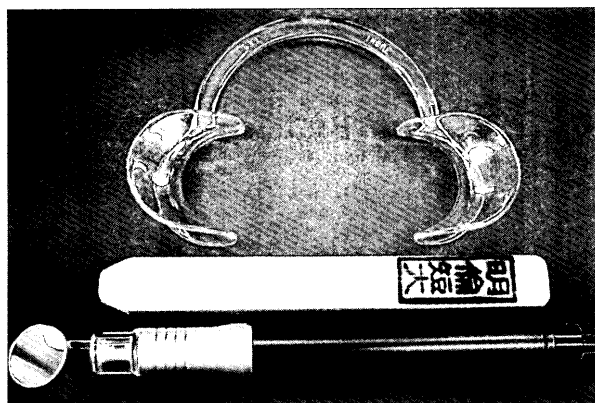


図9. アングルワイダー、開口ヘラ、全反射ライトミラー



図10. アングルワイダーを使用しての口腔清掃



図11. 開口ヘラを使用しての口腔清掃

#### 5. 歯科口腔介護の手法

要介護者はさまざまな問題を抱えている。歯科口腔介護の担当者は、この問題を解決するためのニーズを決め、介護サービス計画を作成し介護を効率的、効果的、継続的に行っていく必要がある<sup>6)</sup>。このための科学的手順をケアマネジメント手法<sup>5)</sup>で実施する。

〈 手 順 〉	〈 方 法 〉
1) 観察・評価	歯科口腔介護課題分析票 (アセスメント票)
↓	↓
2) 問題点選定	問題領域選定表
↓	↓
3) 問題点の解決法特定	カンファレンス記録表
↓	↓
4) 介護計画策定(作成)	歯科口腔介護計画表
↓	↓
5) 実施・記録	実施記録表(業務記録表)
↓	↓
6) 再評価	繰り返し

表1. 歯科口腔介護実施のプロセス

#### 6. おわりに

介護保険制度の中に「居宅療養管理指導」の居宅サービスが導入<sup>1)</sup>されるに伴って、それに対応する歯科衛生士による歯科口腔介護は、要介護者の自立支援やQOLの向上に大きな役割を果たすことになった<sup>7)</sup>。また、歯科口腔介護は、医療保険の訪問歯科衛生指導としても位置づけられている。そこで歯科口腔介護を行う者は、科学的な手法での歯科口腔介護を実践できる知識と技術を勉強してしっかり身につける必要がある。したがって、歯科衛生士が在宅、医療機関、老人

施設などで、保健・医療・福祉（介護）活動を行う際は、歯科領域が担当・責任領域であることを認識し、効率的、効果的、継続的に実施することが大切である。

歯科口腔介護が歯科医療、歯科保健とともに多職種と連携し新たな分野で、高齢化が活力に結びつく明るい社会の構築に貢献できるよう努力したい。

## 文 献

- 1) 介護支援専門員テキスト編集委員会：改訂介護支援専門員基本テキスト，第1巻・第2巻，財団法人長寿社会開発センター，東京，2003.
- 2) 新井俊二：歯科口腔介護の知識（1）．明倫歯誌，1：45-51，1998.
- 3) 本間和代，江川広子，平澤明美，八木恵美，新井俊二，下河辺宏功，石木哲夫：歯科口腔介護・演習のカリキュラムへの導入．明倫歯誌，2：33-39，1999.
- 4) 新井俊二，小椋秀亮，寶田博，浦澤喜一：はじめて学ぶ歯科口腔介護．121-192頁，医歯薬出版，東京，2000.
- 5) Morris, J. N., Hawes, C., Murphy, K. and None Maker, S.: Minimum Data Set Resident Assessment Instrument Training Manual and Resource Guide. Eliot Press, Natick, 1991.
- 6) 新井俊二：歯科口腔介護の知識（2）．明倫歯誌，2：74-79，1999.
- 7) 江川広子，本間和代，平澤明美，佐藤裕子，渡辺美幸，石崎愛，中野奈織，新井俊二：本学における歯科口腔介護の基礎実習教育の研究．明倫歯誌，4：43-47，2001.